

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年5月10日

【四半期会計期間】 第12期第1四半期(自平成25年1月1日至平成25年3月31日)

【会社名】 株式会社paperboy&co.

【英訳名】 paperboy&co., Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 佐藤 健太郎

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区桜丘町26番1号

【電話番号】 03-5456-2622(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼経営管理本部長 久保田 文之

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区桜丘町26番1号

【電話番号】 03-5456-2622(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼経営管理本部長 久保田 文之

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第11期 第1四半期 累計期間		第12期 第1四半期 連結累計期間		第11期	
	自 至	平成24年1月1日 平成24年3月31日	自 至	平成25年1月1日 平成25年3月31日	自 至	平成24年1月1日 平成24年12月31日
売上高 (千円)		929,539		1,016,310		3,809,427
経常利益 (千円)		180,032		178,223		699,900
四半期(当期)純利益 (千円)		104,668		107,549		396,822
四半期包括利益又は包括利益 (千円)		-		108,473		398,376
純資産額 (千円)		1,322,613		1,545,149		1,615,818
総資産額 (千円)		2,920,478		3,317,527		3,375,662
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)		78.88		81.05		299.04
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)		78.61		80.43		297.68
自己資本比率 (%)		45.3		46.6		47.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)		87,862		94,994		590,197
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)		70,256		64,971		292,328
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)		164,458		170,819		172,537
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)		1,639,431		1,770,819		1,911,616

(注) 1. 当社は、前第2四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しておりますので、第11期第1四半期連結累計期間に代えて、第11期第1四半期累計期間について記載しております。

2. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

3. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

本項に記載した将来事象に関する予測・見通し等は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであり、それらには不確実性が内在し将来の結果とは大きく異なる可能性があります。

また、前第2四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、業績等の前年同四半期等との比較は行っておりません。

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、欧州の債務問題や新興国の景気鈍化が続くなど不透明な状況が続いたものの、昨年末に発足した新政権下における経済対策や金融緩和政策の期待感から円安・株高が進行し、輸出環境が好転するなど景気回復への兆しが見えております。

こうした中で、平成24年度における国内のスマートフォン出荷台数は2,898万台から平成29年度には3,530万台へ拡大し、携帯電話出荷台数に占めるスマートフォンの比率は平成24年度71%から平成29年度には84%を超える見通しです（株式会社MM総研調べ）。

このようなスマートフォンやタブレット端末の普及を背景とした継続的なEC市場の拡大や昨年後半からの電子書籍関連市場の本格化の動きなど、当社グループが関連するインターネット市場は堅調に拡大しております。

こうした環境のもと、各サービスで主にスマートフォンを対象としたキャンペーンや機能拡充などを行ったことにより契約件数が伸び、業績予想に対し売上高・営業利益共に順調に推移いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高1,016,310千円、営業利益175,821千円、経常利益178,223千円、四半期純利益107,549千円となりました。

(セグメント別の状況)

ホスティング事業

ホスティング事業については、レンタルサーバー各サービスにおいてキャンペーンを積極的に展開しつつ、スペックの向上や機能拡充を行い、よりいっそうの競争力向上を図ったことにより、当第1四半期連結累計期間のレンタルサーバー契約件数は378,000件（前年同期比27,000件増）となりました。また、レンタルサーバー契約件数の順調な増加に伴い、ドメインサービスも堅調に推移し、登録ドメイン数は、822,000件（前年同期比46,000件増）となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるホスティング事業の売上高は709,247千円、セグメント利益は221,012千円となりました。

EC支援事業

EC支援事業については、ユーザーからの要望が高かった無料電話サポートの開始をはじめ、スマートフォン向けの機能拡充や新規サービスにおいてリアルイベントに参加することによる認知度の向上など様々な施策を行ったことにより、当第1四半期連結累計期間の「カラーミーショップ」契約件数は40,500件（前年同期比3,700件増）、「カラメル」の出店店舗数は20,700件（前年同期比2,100件増）となりました。

また、昨年より提供開始した新規サービスや既存サービスの新機能などに継続的な開発・投資を進めております。この結果、当第1四半期連結累計期間におけるEC支援事業の売上高は236,472千円、セグメント利益は98,839千円となりました。

コミュニティ事業

コミュニティ事業では、会員数198万名にのぼるブログサービス「JUGEM」において、スマートフォンをはじめFacebookやLINEなどのSNSに向けた機能の拡充を図りました。

電子書籍関連サービス「ブクログ」及び「パパー」では、昨年末からの電子書籍市場における本格化の動きに伴って、広告や電子書籍販売が好調に推移し、当第1四半期連結累計期間のブログの有料プランである「JUGEM PLUS」契約件数は20,620件（前年同期比1,290件増）、ブックレビューコミュニティサイト「ブクログ」は会員数641,000名（前年同期比142,000件増）となりました。また、組織体制のスリム化やハードウェア構成などコスト見直しを継続的に行いました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるコミュニティ事業の売上高は70,590千円、セグメント利益は9,426千円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は3,317,527千円（前連結会計年度末比58,135千円減）となりました。これは、主に売上及び利益の増加により「売掛金」が57,704千円増加したものの前期に係る剰余金の配当及び法人税等の納税等による「現金及び預金」が140,797千円減少したことによるものであります。

負債は1,772,377千円（同12,533千円増）となりました。これは、主に会員数等の増加に伴い「前受金」や「その他（預り金）」等が109,746千円増加したこと、前期に係る法人税等の納税による「未払法人税等」が108,789千円減少したことによるものであります。

純資産は1,545,149千円（同70,669千円減）となりました。これは、剰余金の配当により179,142千円減少したものの四半期純利益の計上に伴い利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、1,770,819千円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは94,994千円の増加となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益の計上によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは64,971千円の減少となりました。これは、主に固定資産の取得や投資有価証券の取得によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは170,819千円の減少となりました。これは、配当金の支払によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,500,000
計	1,500,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年5月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,327,200	1,327,200	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	1,327,200	1,327,200		

(注) 提出日現在の発行数には、四半期報告書提出日(平成25年5月10日)の新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年1月1日～ 平成25年3月31日		1,327,200		120,867		110,867

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成24年12月31日)に基づく株主名簿による記載しております。

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,325,700	13,257	
単元未満株式	普通株式 1,300		
発行済株式総数	1,327,200		
総株主の議決権		13,257	

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社paperboy&co.	東京都渋谷区桜丘町26番1号	200		200	0.02
計		200		200	0.02

2 【役員の状況】

該当事項はございません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

また、当社は、前第2四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較情報は記載しておりません。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成25年1月1日から平成25年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年1月1日から平成25年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,911,616	1,770,819
売掛金	519,866	577,570
その他	180,061	170,100
貸倒引当金	4,478	5,005
流動資産合計	2,607,066	2,513,484
固定資産		
有形固定資産	157,617	161,592
無形固定資産	189,562	188,789
投資その他の資産	421,416	453,660
固定資産合計	768,595	804,042
資産合計	3,375,662	3,317,527
負債の部		
流動負債		
営業未払金	53,228	64,759
未払法人税等	165,604	56,815
前受金	1,060,885	1,115,476
その他	467,450	522,606
流動負債合計	1,747,169	1,759,657
固定負債		
資産除去債務	12,674	12,720
固定負債合計	12,674	12,720
負債合計	1,759,844	1,772,377
純資産の部		
株主資本		
資本金	120,867	120,867
資本剰余金	110,867	110,867
利益剰余金	1,383,114	1,311,521
自己株式	586	586
株主資本合計	1,614,264	1,542,671
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,554	2,478
その他の包括利益累計額合計	1,554	2,478
純資産合計	1,615,818	1,545,149
負債純資産合計	3,375,662	3,317,527

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
売上高	1,016,310
売上原価	477,990
売上総利益	538,320
販売費及び一般管理費	362,498
営業利益	175,821
営業外収益	
受取利息	30
受取配当金	2,099
匿名組合投資利益	1,506
その他	93
営業外収益合計	3,729
営業外費用	
投資有価証券評価損	1,168
その他	159
営業外費用合計	1,327
経常利益	178,223
特別損失	
減損損失	8,010
特別損失合計	8,010
税金等調整前四半期純利益	170,212
法人税、住民税及び事業税	56,128
法人税等調整額	6,534
法人税等合計	62,662
少数株主損益調整前四半期純利益	107,549
四半期純利益	107,549

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	107,549
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	924
その他の包括利益合計	924
四半期包括利益	108,473
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	108,473
少数株主に係る四半期包括利益	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	170,212
減価償却費	29,505
減損損失	8,010
投資有価証券評価損益(は益)	1,168
匿名組合投資損益(は益)	1,506
貸倒引当金の増減額(は減少)	526
受取利息及び受取配当金	2,130
売上債権の増減額(は増加)	57,703
前渡金の増減額(は増加)	14,387
その他の流動資産の増減額(は増加)	12,059
営業未払金の増減額(は減少)	11,530
前受金の増減額(は減少)	54,591
その他の流動負債の増減額(は減少)	26,921
その他	716
小計	242,739
利息及び配当金の受取額	2,130
法人税等の支払額	149,875
営業活動によるキャッシュ・フロー	94,994
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	13,335
無形固定資産の取得による支出	21,735
関係会社株式の取得による支出	4,900
匿名組合出資金の払込による支出	25,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	64,971
財務活動によるキャッシュ・フロー	
配当金の支払額	170,819
財務活動によるキャッシュ・フロー	170,819
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	140,797
現金及び現金同等物の期首残高	1,911,616
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,770,819

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)
現金及び預金	1,770,819千円
現金及び現金同等物	1,770,819千円

(株主資本等関係)

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年3月20日 定時株主総会	普通株式	179,142	135	平成24年12月31日	平成25年3月21日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	四半期連結 損益計算書 計上額
	ホスティング 事業	EC支援事業	コミュニ ティ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	709,247	236,472	70,590	1,016,310	-	1,016,310
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	709,247	236,472	70,590	1,016,310	-	1,016,310
セグメント利益又は損失()	221,012	98,839	9,426	329,278	153,457	175,821

(注) 1 セグメント利益の調整額 153,457千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	81円05銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(千円)	107,549
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	107,549
普通株式の期中平均株式数(株)	1,326,983
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	80円43銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益調整額(千円)	-
普通株式増加数(株)	10,195
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年5月9日

株式会社paperboy&co.

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松野 雄一郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岡田 雅史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社paperboy&co.の平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年1月1日から平成25年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社paperboy&co.及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。